

表12 小規模ケアへの今後の取り組み予定

	件数	%
現在すでに入所児童全員に対して小規模ケアを行っているので必要ない	8	7.3
本体施設を全面的に改築して小規模化を図る予定 (あるいはほしい)	14	12.7
本体施設の一部を改築する予定 (あるいはほしい)	18	16.4
本体施設敷地内に場所を用意する予定 (あるいはほしい)	17	15.5
本体施設敷地外に場所を探す予定 (あるいはほしい)	21	19.1
小規模化したいと思っているが具体的には考えていない	23	20.9
小規模化する考えはない	10	9.1
その他	9	8.2
無回答	7	6.4
総数	110	100.0

表13 適正なケア単位

	件数	%
6人未満	55	50.0
6人がよい	30	27.3
6人以上	6	5.5
年齢層による	10	9.1
無回答	9	8.2
総数	110	100.0

表13-1 6人未満の具体的人数

	件数	%
5人	7	12.7
4人	26	47.3
3人	8	14.5
2人	1	1.8
無回答	13	23.6
総数	55	100.0

表13-2 6人以上の具体的人数

	件数	%
8人	2	33.3
10人	3	50.0
無回答	1	16.7
総数	6	100.0

表14 小規模化を推進する上での問題や課題

	件数	%
職員配置が困難である	89	80.9
職員の精神的負担が大きくなる	60	54.5
職員の勤務体制が労働基準法に触れることになる	58	52.7
職員が加重労働になり、十分に休養ができない	52	47.3
公的補助が受けられない・充分ではない	47	42.7
自己資金が足りない	40	36.4
施設の構造上の問題があり、改築が困難である	26	23.6
専門的助言(スーパーバイザー コンサルテーション)が必要になる	25	22.7
入所児童間のサービスの質に格差が生じる	25	22.7
大集団の方が適した状態の子どもがいる	21	19.1
適当な物件が見つからない	21	19.1
職員と密接になることで、子どもの逃げ場がなくなる	17	15.5
小規模化により、子ども同士のトラブルが増える	3	2.7
近隣住民の理解が得られにくい	2	1.8
具体的な方法がわからないので、計画がたてられない	1	0.9
その他	7	6.4
無回答	4	3.6
総数	110	100.0

<小規模ケア用調査結果>

表15-1 小規模ケアの形態

	件数	%
本体施設内ユニットケア	9	13.4
小規模グループケア(本体施設内)	10	14.9
小規模グループケア(施設敷地内)	12	17.9
小規模グループケア(施設敷地外)	11	16.4
地域小規模児童養護施設	21	31.3
その他	2	3.0
無回答	2	3.0
総数	67	100.0

表15-2 回答者の職名

職名	件数	%
保育士	26	38.8
児童指導員	23	34.3
主任児童指導員	8	11.9
事務長、施設長、園長	4	6.0
無回答	6	9.0
総数	67	100.0

表15-3 小規模ケアの職員体制

	件数	%
夫婦制	1	1.5
夫婦以外の職員体制	63	94.0
無回答	3	4.5
総数	67	100.0

表15-3-1 夫婦以外の職員体制 人数

	件数	%
1名	1	1.5
2名	14	20.9
3名	26	38.8
4名	11	16.4
5名以上	8	11.9
無回答	7	10.4
総数	67	100.0

表15-3-2 小規模ケアの定員・現員

	入所定員		現員	
	件数	%	件数	%
5名	0	0.0	9	13.4
6名	47	70.1	36	53.7
7名	0	0.0	3	4.5
8名	5	7.5	3	4.5
9名	0	0.0	1	1.5
10名以上	8	11.9	7	10.4
無回答	7	10.4	8	11.9
総数	67	100.0	67	100.0

表15-4 年齢別児童数

	未就学児童		小学生		中学生		高校生		その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1名	8	11.9	2	3.0	13	19.4	14	20.9	1	1.5
2名	6	9.0	16	23.9	13	19.4	13	19.4	0	0.0
3名	4	6.0	11	16.4	12	17.9	5	7.5	0	0.0
4名	1	1.5	13	19.4	2	3.0	2	3.0	0	0.0
5名	2	3.0	5	7.5	2	3.0	1	1.5	0	0.0
6名	0	0.0	2	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7名以上	2	3.0	2	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答(0人を含む)	44	65.7	16	23.9	25	37.3	32	47.8	66	98.5
総数	67	100.0	67	100.0	67	100.0	67	100.0	67	100.0

表15-5 小規模ケアの設置時期

	件数	%
～1999年	7	10.4
2000年	3	4.5
2001年	4	6.0
2002年	2	3.0
2003年	8	11.9
2004年	25	37.3
2005年	15	22.4
2006年	1	1.5
無回答	2	3.0
総数	67	100.0

表15-6 個室の有無

	中学生		高校生	
	件数	%	件数	%
なし	32	47.8	19	28.4
一部あり	10	14.9	10	14.9
あり	16	23.9	22	32.8
無回答	9	13.4	16	23.9
総数	67	100.0	67	100.0

表16 施設の小規模化の必要性

	件数	%
非常に必要だと思う	47	70.1
やや必要だと思う	19	28.4
あまり必要ではないと思う	0	0.0
全く必要ないと思う	0	0.0
無回答	1	1.5
総数	67	100.0

<本体施設用調査>

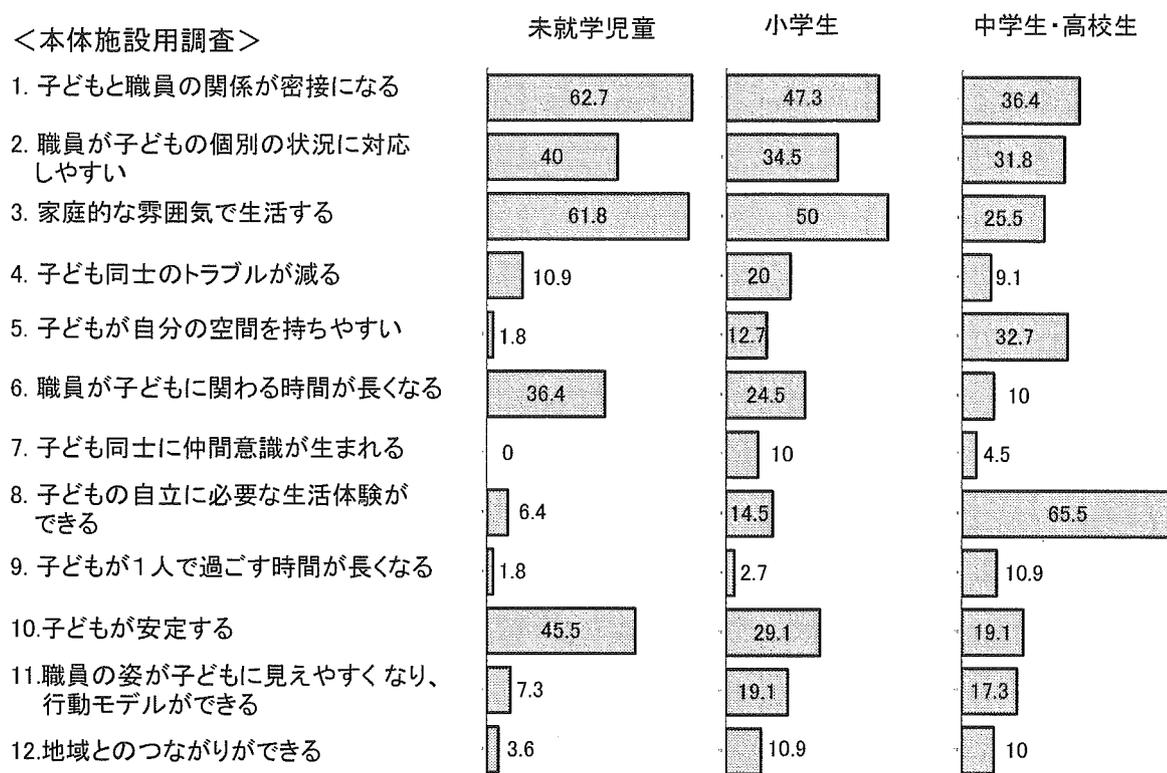


図2-1 年齢別小規模化のメリット 本体施設用調査(n=110)

<小規模ケア用調査>

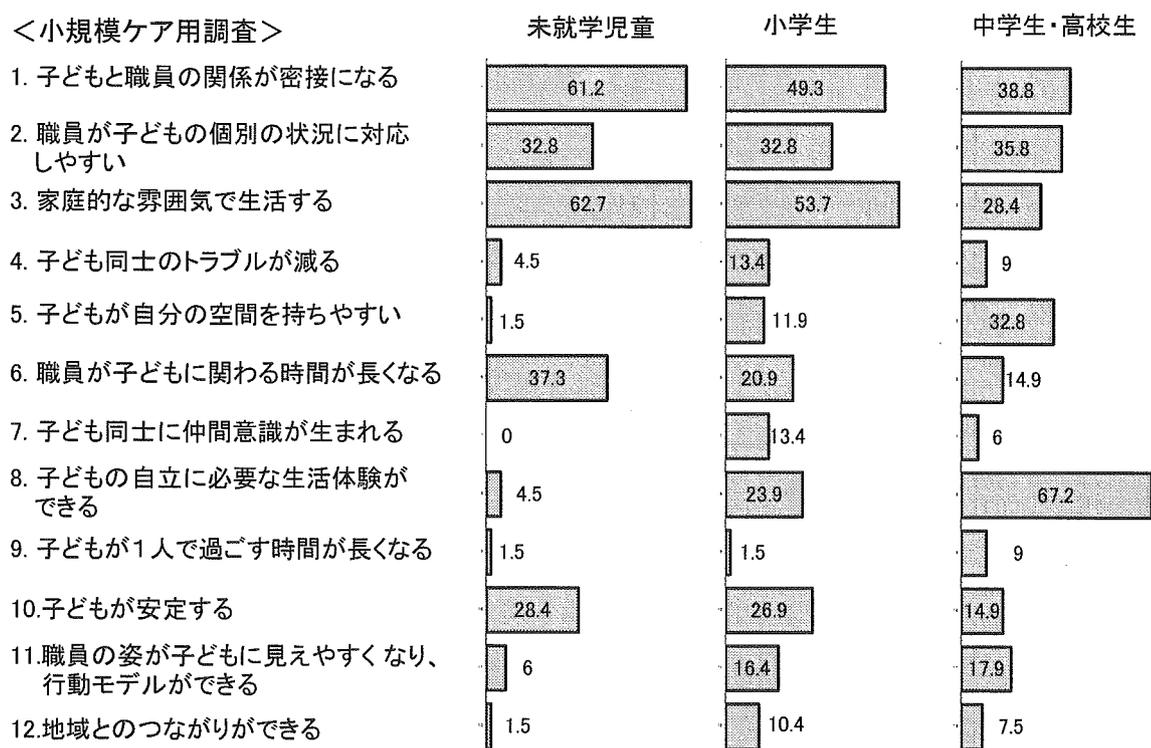


図2-2 年齢別小規模化のメリット 本体施設用調査(n=67)

表17 小規模化することによるメリット

	未就学児童		小学生		中学生・高校生	
	件数	%	件数	%	件数	%
子どもと職員の関係が密接になる	41	61.2	33	49.3	26	38.8
職員が子どもの個別の状況に対応しやすい	22	32.8	22	32.8	24	35.8
家庭的な雰囲気与生活する	42	62.7	36	53.7	19	28.4
子ども同士のトラブルが減る	3	4.5	9	13.4	6	9.0
子どもが自分の空間を持ちやすい	1	1.5	8	11.9	22	32.8
職員が子どもに関わる時間が長くなる	25	37.3	14	20.9	10	14.9
子ども同士に仲間意識が生まれる	0	0.0	9	13.4	4	6.0
子どもの自立に必要な生活体験ができる	3	4.5	16	23.9	45	67.2
子どもが1人で過ごす時間が長くなる	1	1.5	1	1.5	6	9.0
子どもが安定する	19	28.4	18	26.9	10	14.9
職員の姿が子どもに見えやすくなり行動モデルができる	4	6.0	11	16.4	12	17.9
地域とのつながりができる	1	1.5	7	10.4	5	7.5
その他	0	0.0	2	3.0	3	4.5
無回答	13	19.4	5	7.5	3	4.5
総数	67	100.0	67	100.0	67	100.0

表18 今後のグループホームへの取り組み

	件数	%
入所児童全員がグループホームで生活できるように今後も増設することがよい	15	22.4
グループホームでの生活が必要な一部の児童が入所できるだけ増設することがよい	19	28.4
今あるグループホームの体制で実践を積んでから考えることがよい	21	31.3
グループホームにはいろいろと課題があるので、増設の前にその対応を先にすべきだ。	11	16.4
これ上設置する必要はない	0	0.0
その他	1	1.5
総数	67	100.0

表19 今後の小規模ケアへの取り組み

	件数	%
本体施設を全面的に改築して、ユニットケアの導入を図るのがよい	8	11.9
本体施設の一部を改築して、現状から徐々に移行するのがよい	11	16.4
本体施設敷地内に適当な場所を設置するのがよい	3	4.5
本体施設敷地外に適当な場所を設置するのがよい	12	17.9
さまざまな形態の小規模グループケアができることがよい	28	41.8
小規模化する必要はない	0	0.0
その他	2	3.0
無回答	3	4.5
総数	67	100.0

表20-1 適正なケア単位

	件数	%
6人未満	33	49.3
6人がよい	23	34.3
6人以上	3	4.5
年齢層による	7	10.4
無回答	1	1.5
総数	67	100.0

表20-2 6人未満の具体的人数

	件数	%
5人	7	21.2
4人	13	39.4
3人	5	15.2
2人	1	3.0
無回答	7	21.2
総数	33	100.0

表20-3 6人以上の具体的人数

	件数	%
10人	1	33.3
無回答	2	66.7
総数	3	100.0

表21 小規模化を推進する上での問題や課題

	件数	%
職員配置が困難である	49	73.1
職員の精神的負担が大きくなる	35	52.2
職員が加重労働になり、十分に休養ができない	30	44.8
職員の勤務体制が労働基準法に触れることになる	28	41.8
専門的助言(スーパーバイザー コンサルテーション)が必要になる	26	38.8
公的補助が受けられない・充分ではない	22	32.8
入所児童間のサービスの質に格差が生じる	21	31.3
大集団の方が適した状態の子どもがいる	19	28.4
自己資金が足りない	17	25.4
職員と密接になることで、子どもの逃げ場がなくなる	12	17.9
施設の構造上の問題があり、改築が困難である	11	16.4
近隣住民の理解が得られにくい	5	7.5
適当な物件が見つからない	4	6.0
小規模化により、子ども同士のトラブルが増える	3	4.5
具体的な方法がわからないので、計画がたてられない	0	0.0
その他	5	7.5
無回答	1	1.5
総数	67	100.0

1. 職員配置が困難である
2. 職員の精神的負担が大きくなる
3. 職員の勤務体制が労働基準法に触れることになる
4. 職員が加重労働になり、十分に休養ができない
5. 公的補助が受けられない・充分ではない
6. 自己資金が足りない
7. 施設の構造上の問題があり、改築が困難である
8. 専門的助言(スーパーバイザー コンサルテーション)が必要になる
9. 入所児童間のサービスの質に格差が生じる
10. 大集団の方が適した状態の子どもがいる
11. 適当な物件が見つからない
12. 職員と密接になることで、子どもの逃げ場がなくなる
13. 小規模化により、子ども同士のトラブルが増える
14. 近隣住民の理解が得られにくい
15. 具体的な方法がわからないので、計画がたてられない

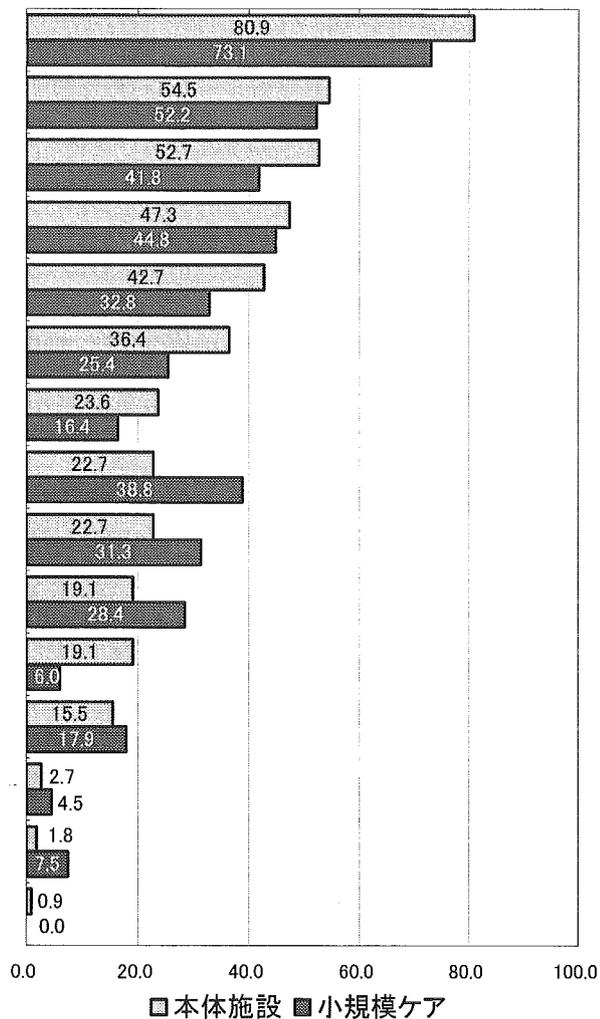


図3 小規模化のを推進する上での問題や課題



1-9. グループホームの設置（該当する番号すべてに○、（ ）に棟数、設置時期を記入してください）

1. 地域小規模児童養護施設 計（ ）棟 ー設置時期（ ）年（ ）棟 （ ）年（ ）棟
2. 自活訓練事業実施指定施設 計（ ）棟 ー設置時期（ ）年（ ）棟 （ ）年（ ）棟
3. その他のグループホーム（県の要綱によるなど）計（ ）棟 ー設置時期（ ）年（ ）棟  
具体的に（ ）
4. 設置していない

2. 貴施設では現在小規模ケアを採用していますか（1つに○）

1. 採用している
2. 採用していない ———— 問3にお進みください。

「1. 採用している」と答えた方がお答えください。

2-1. 小規模ケアはいつから採用していますか。

昭和・平成 年 から

2-2. 小規模ケアを実施している場所はどこですか（該当するものすべてに○）

1. 本体施設内ユニットケア
2. 小規模グループケア（本体施設内）
3. 小規模グループケア（施設敷地内）
4. 小規模グループケア（施設敷地外）
5. 地域小規模児童養護施設
6. その他（ ）

2-3. 小規模ケアは入所児童全員を対象に行われていますか（1つに○）

1. 入所児童全員が対象
2. 一部の入所児童が対象

「2. 一部の入所児童が対象」と答えた方にお聞きします。

2-3-1. 小規模ケアで生活する子どもは、どのような基準で選定していますか  
具体的にお書き下さい。

## II. 貴施設での養育形態について

すべての方が、<本体施設>についてお答えください。

II、IIIの設問は、小規模グループケアや地域小規模児童養護施設を実施している場合には、それらを除いた部分についてお答え下さい。

3. 貴施設（本体施設）での養育形態についてお聞きします。

3-1. 子どものグループはどのような構成になっていますか。

1. 大まかな横割り
2. 縦割り
3. 横割りと縦割りの両方

3-2. 縦割りの場合はどういう年齢層で構成されていますか（最少と最高年齢に○をして下さい）

最少年齢（未就学児童・小学生・中学生・高校生・その他）から

最高年齢（小学生・中学生・高校生・その他）まで

3-3. 1つの寝室の人数 平均的には（ ）人

最少人数（ ）人 最多人数（ ）人

3-4. 子どもの個室はありますか。

3-4-1. 中学生 1. なし 2. 一部あり 3. あり

3-4-2. 高校生 1. なし 2. 一部あり 3. あり

3-4-3. 子どもの個室が一部ありの場合、個室を利用する子どもをどういう基準で選定していますか。具体的にお書き下さい。

3-5. 職員が子どもを担当する場合、どのような担当制をもっていますか。

任意の職員1人の担当を具体的に例示して下さい。

(例：〇〇棟の学童全員を担当、 〇〇寮の小学1～3年生の6名を担当など)

3-6. 3-5. で答えていただいた担当は平均的にはどの程度の期間継続して担当しますか。

1. 1年未満

2. 1年以上2年未満

3. 2年以上3年未満

4. 3年以上4年未満

5. 4年以上5年未満

6. 5年以上

7. 担当は変わらない

8. その他 ( )

### Ⅲ. 入所児童の居住環境について

すべての方が、<本体施設>についてお答えください。

Ⅱ、Ⅲの設問は、小規模グループケアや地域小規模児童養護施設を実施している場合には、それらを除いた部分についてお答え下さい。

4. 貴施設には以下の目的の居室や施設（寮など）が用意されていますか。

4-1. 子どもと家族のための以下の部屋がありますか。

4-1-1. 面会室 1. ない 2. ある → 専用・兼用（1つに○）

4-1-2. 親子宿泊室 1. ない 2. ある

4-2. 退所者（満年齢により自活となる者）が一定期間居住できる居室（あるいは寮）を提供していますか。

1. ある

2. ない ————— 問5にお進みください。

「1. ある」と答えた方にお聞きします。

4-2-1. その居室（あるいは寮）の設置場所はどこですか。

1. 本体施設敷地内 2. 本体施設敷地外

4-2-2. その居室（あるいは寮）の広さはどの程度ですか。具体的にお書き下さい。

(例：1DK風呂付き )

4-2-3. 何名まで利用できますか。 定員 ( ) 名 現員 ( ) 名

4-2-4. その場合の費用負担はどのようになっていますか。

1. 自己負担なし 2. 自己負担あり ———— 月あたり 約 ( ) 円

4-2-5. 食事はどのようにしていますか。

1. 自炊 2. 本体施設の食堂を利用している ( ) 名 3. その他 ( )

5. 貴施設ではどのように設備が利用されていますか。

5-1. 個々の子ども専用で使えるものにはどのようなものがありますか

以下に示すものがある場合には該当するものすべてに○をしてください。

私物であるか、施設のものであるかの別は問いません。

1. 勉強机 ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )
2. 寝具 ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )
3. 自分の大切なものを管理できる場 ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )
4. 好きなポスターや写真を飾る場 ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )
5. 食器 ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )
6. その他 ( ) ( 1. 未就学児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 )

5-2. 施設内には児童が自由に使える共同のスペースがありますか。(該当するものすべてに○)

1. 学習室
2. 遊戯室
3. 図書室
4. 食堂
5. 居間・談話室
6. 庭・運動場
7. 集会室
8. その他 ( )

5-3. 施設に入所児童以外の子ども(入所児童の学校等での友だち)が来ることを認めていますか。

1. はい
2. いいえ ————— 問5-4にお進みください。

「1. はい」と答えた方にお聞きします。

5-3-1. どこですごしますか(該当するものすべてに○)

1. 玄関
2. 共同スペース
3. 居室
4. 庭など屋外
5. その他 ( )

5-3-2. 入所児童以外の子ども(入所児童の学校等での友だち)が宿泊することはできますか。

1. はい
2. いいえ

5-4. 子どもが学習のため、あるいは気持ちを落ち着かせるためなど、1人になることができる場所がありますか。

1. はい
2. いいえ ————— 問6にお進みください。

「1. はい」と答えた方にお聞きします。

5-4-1. 具体的にどのような場所ですか。

[ ]

5-4-2. その場所を子どもはいつでも自由に使うことができますか。

1. いつでも使える
2. 使える時間が決まっている
3. 職員の許可が必要
4. その他 ( )

6. 貴施設における児童の居住環境としての問題点や課題はどのようなことでしょうか。

それぞれの項目について、該当する数字に○をして下さい。

	かなり あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
6-1. 入所児童が多く、居室に1人1人に必要な 広さが確保されにくい	5	4	3	2	1
6-2. 寝室以外に自由に使えるスペースが少ない	5	4	3	2	1
6-3. 子どもが1人になれる空間が少ない	5	4	3	2	1
6-4. 浴室やトイレが混み合う	5	4	3	2	1
6-5. 家庭のような温かみのある空間が少ない	5	4	3	2	1
6-6. 建物の老朽化で、改善が必要な箇所が多い	5	4	3	2	1
6-7. ひとつの部屋が広すぎて、使いにくい	5	4	3	2	1
6-8. 子どもの私物や好みを採用しにくい	5	4	3	2	1
6-9. 地域の人や子どもたちと交流しにくい	5	4	3	2	1
6-10. 職員が子どもの行動を把握しにくい	5	4	3	2	1
6-11. 子どもの年齢に対応した空間が整備されて いない（例：幼児向け、中高生向けなど）	5	4	3	2	1
6-12. 子どものプライバシーが十分に確保できない	5	4	3	2	1
6-13. 自立支援のための設備や環境が整っていない	5	4	3	2	1
6-14. 子どもの家族などの来訪者とゆっくり 過ごせる空間がない	5	4	3	2	1
6-15. 施設内の温度調整がしにくい	5	4	3	2	1

7. 児童の居住環境を整えるための施設設置や改築等に要する費用は国庫補助以外にはどのように準備していますか。

7-1. 国庫補助以外の県独自の加算 1. なし 2. あり

7-2. 寄附・バザーなどの収入 1. なし 2. あり（平成17年度 万円）

\*平成17年4月～18年2月までの間



11. 貴施設では、小規模ケアには今後どのように取り組む予定ですか。

(該当するものすべてに○)

1. 現在すでに入所児童全員に対して小規模ケアを行っているので、必要ない
2. 本体施設を全面的に改築して、小規模化を図る予定 (あるいはしたい)
3. 本体施設の一部を改築する予定 (あるいはしたい)
4. 本体施設敷地内に場所を用意する予定 (あるいはしたい)
5. 本体施設敷地外に場所を探す予定 (あるいはしたい)
6. 小規模化したいと思っているが、具体的には考えていない
7. 小規模化する考えはない
8. その他 ( )

12. 国の基準ではケア単位は6人となっていますが、何人くらいが適正だと思いますか (1つに○)

1. 6人未満 具体的に: ( ) 人くらい
2. 6人がよい
3. 6人以上 具体的に: ( ) 人くらい
4. 年齢層による 具体的に: ( )

上記 12-1 の番号を選んだ理由を具体的にお書き下さい。

## V. 小規模化の推進を阻害する要因について

13. 今後小規模化を進めていく上で、問題や課題となることはどのようなことでしょうか。

以下の項目から、現状に近いものを5つまで選び、○をして下さい。

1. 職員配置が困難である
2. 職員の勤務体制が労働基準法に触れることになる
3. 職員が加重労働になり、十分に休養ができない
4. 職員の精神的負担が大きくなる
5. 専門的助言 (スーパーバイザー コンサルテーション) が必要になる
6. 小規模化により、子ども同士のトラブルが増える
7. 大集団の方が適した状態の子どもがいる
8. 職員と密接になることで、子どもの逃げ場がなくなる
9. 入所児童間のサービスの質に格差が生じる
10. 適当な物件が見つからない
11. 近隣住民の理解が得られにくい
12. 施設の構造上の問題があり、改築が困難である
13. 自己資金が足りない
14. 公的補助が受けられない・充分ではない
15. 具体的な方法がわからないので、計画がたてられない
16. その他 ( )

14. 施設の小規模化についてのご意見・ご要望についてご自由にお書き下さい。

15. 小規模ケアをすでに採用している場合、以下のことに関して日頃お感じになっていることをご自由にお書きください。

子どもの変化（良かったこと）

子どもの変化（改善や対応が必要なこと）

職員の変化（良かったこと）

職員の変化（改善や対応が必要なこと）

調査にご協力いただきありがとうございました。

## 児童養護施設の小規模化に関する調査

### <小規模ケア用>

本調査は現在国によって取り組みが推進されている『施設の小規模化』について、その実態や課題について明らかにすることにより、乳幼児期、学齢期、青年期などの子どものライフステージに応じた社会的養護サービスのあり方を検討するためのものです。ご多忙のところ大変恐縮ですが、ぜひ調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。

ご回答いただきましたデータは統計的に処理し、貴施設ならびに回答者のプライバシーに関してご迷惑はおかけいたしません。また、データは目的以外には使用しないことをお約束いたします。調査結果は本年6月頃送付いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、記入済みの調査票は、平成18年3月17日までに、同封の返信用封筒にてご返送下さい。

#### <本調査に関するお問い合わせ先>

日本子ども家庭総合研究所 〒106-8580 東京都港区南麻布 5-6-8

庄司順一 E-Mail shoji@aiiku.or.jp

子どもの領域研究所 尾木まり Phone. 03-3714-1419 Fax. 03-3712-8513

本調査では以下のように分類して用語を使用しています。

本体施設 : 施設建物内の小規模グループケア・ユニットおよび地域小規模児童養護施設を除いた本体部分

小規模ケア : 施設内外に設置された小規模グループケア(ユニット)、地域小規模児童養護施設などを含む

### I. 貴小規模ケアについて

(小規模グループケアあるいはユニットケア、あるいは地域小規模児童養護施設など)

#### 1. 貴小規模ケアについてお聞きします。

1-1. 施設名 ( )

ユニットあるいはホーム名 ( )

所在地 ( ) 都・道・府・県 ( ) 市・町・村

#### 1-2. 小規模ケアの形態(1つに○)

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 本体施設内ユニットケア      | 2. 小規模グループケア(本体施設内) |
| 3. 小規模グループケア(施設敷地内) | 4. 小規模グループケア(施設敷地外) |
| 5. 地域小規模児童養護施設      | 6. その他( )           |

1-3. 回答者の職名 ( )

1-4. 職員体制 1. 夫婦制 2. 夫婦以外の職員体制 ( ) 名

1-5. 入所定員 ( ) 名 1-6. 現員(2006年3月1日現在) ( ) 名

1-7. 年齢別児童数 未就学児童 ( ) 名 小学生 ( ) 名 中学生 ( ) 名  
高校生 ( ) 名 その他 ( ) 名

1-8. 貴小規模ケアの設置時期 昭和・平成 年

## II. 養育形態について

2. 貴小規模ケアでの養育形態についてお聞きします。

2-1. 現在入所している子どもはどのような基準で選定されましたか。

2-2. 子どもの個室はありますか。

2-2-1. 中学生            1. なし            2. 一部あり            3. あり

2-2-2. 高校生            1. なし            2. 一部あり            3. あり

2-2-3. 子どもの個室が一部ありの場合、個室を利用する子どもをどのような基準で選定していますか。具体的にお書き下さい。

## III. 施設の小規模化について

3. 今後の社会的養護のあり方として、施設の小規模化という方向に進んでいますが、実際に小規模ケアを実施して、その必要性をどの程度感じていますか。

1. 非常に必要だと思う            2. やや必要だと思う  
3. あまり必要ではないと思う            4. 全く必要ないと思う

3-1. 上記の番号を選んだ理由を具体的にお書き下さい。

4. 実際に小規模ケアを実施して、施設を小規模化することにどのようなメリットがあると思いますか。以下の年齢別に最も大きいメリットであると思うものを選択肢から3つ選び、それぞれの枠に数字を記入してください。その他を選ばれた時は欄外に具体的にお書きください。

未就学児童			
小学生			
中学生・高校生			

選択肢

1. 子どもと職員の関係が密接になる            2. 職員が子どもの個別の状況に対応しやすい  
3. 家庭的な雰囲気与生活する            4. 子ども同士のトラブルが減る  
5. 子どもが自分の空間を持ちやすい            6. 職員が子どもに関わる時間が長くなる  
7. 子ども同士に仲間意識が生まれる            8. 子どもの自立に必要な生活体験ができる  
9. 子どもが1人で過ごす時間が長くなる            10. 子どもが安定する  
11. 職員の姿が子どもに見えやすくなり、行動モデルができる  
12. 地域とのつながりができる            13. その他 (            )

5. 今後、地域小規模児童養護施設などのグループホームについてどのように取り組むことがよいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選んで○をしてください。

\*グループホームには地域小規模児童養護施設、自活訓練事業実施指定施設を含みます。

1. 入所児童全員がグループホームで生活できるように今後も増設することがよい
2. グループホームでの生活が必要な一部の児童が入所できるだけ増設することがよい
3. 今あるグループホームの体制で実践を積んでから考えることがよい
4. グループホームにはいろいろと課題があるので、増設の前にその対応を先にすべきだ
5. これ以上、設置する必要はない
6. その他 ( )

5-1. 上記の番号を選んだ理由を具体的にお書きください

6. 今後、小規模ケアにどのように取り組むことがよいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選んで○をしてください。

1. 本体施設を全面的に改築して、ユニットケアの導入を図るのがよい
2. 本体施設の一部を改築して、現状から徐々に移行するのがよい
3. 本体施設敷地内に適当な場所を設置するのがよい
4. 本体施設敷地外に適当な場所を設置するのがよい
5. さまざまな形態の小規模グループケアができることがよい
6. 小規模化する必要はない
7. その他 ( )

6-1. 上記の番号を選んだ理由を具体的にお書きください

7. 国の基準ではケア単位は6人となっていますが、実際に小規模ケアを実施して何人くらいが適正だと思いますか (1つに○)

1. 6人未満 具体的に：( )人くらい
2. 6人がよい
3. 6人以上 具体的に：( )人くらい
4. 年齢層による 具体的に：( )

7-1. 上記の番号を選んだ理由を具体的にお書きください



# 児童養護施設の食事環境に関する調査研究

日本子ども家庭総合研究所

堤ちはる

## 研究要旨

成長期の子どもにとって、適切な食事環境が提供されることは、身体の成長・発達に直接的に影響するだけにとどまらず、複数の人間と囲む食卓を通して、人間関係が構築され、豊かな心も育まれる。本研究においては、児童養護施設の入所児童、職員の QOL の向上を目的に、食事環境調査を本体施設と小規模ケアに分けて実施し、施設形態における特徴、ならびに、小規模ケアにおいて配慮すべき点を明らかにした。

小規模ケアにおいては、本体施設に比べ、食堂の雰囲気も落ち着いている施設が多く、快適な食事環境が提供されていた。また、日常的に食事作りに参加しやすい、あるいは自ら食事作りのできる環境が用意されていることが明らかにされた。さらに、「食育」も積極的に推進している状況が推察される。しかしながら、食生活、栄養の専門家の指導を受けていない小規模ケアの施設もあることから、献立に変化が乏しかったり、食物アレルギー等食事に特別の配慮の必要な児童への対応や、幼児食への対応などが十分でないところが本体施設より多かった。また、冷凍食品の使用状況等は施設間で差がみられることから、施設全体の食生活に対する考え方や担当職員の資質により、食事環境の施設間格差は本体施設より大きいことが推察される。これらの結果から、小規模ケアにおいては、食生活、栄養の専門家から指導を受ける重要性が示唆される。また、外部の食生活に関する研修会に積極的に参加することにより、新しい情報を収集したり、他施設との情報交換を密にすることが、小規模ケアの食事環境を向上させることにつながると考える。

## A. 研究目的

近年、児童養護施設のあり方に関しては、施設種別間問題にとどまらず、社会的養護体系における家庭的養護の比率の低さについても議論されている。これは、多くの児童養護施設は、大舎制を採用しており、そのことは子どもにとって最善のものではないとの考えに基づくものである。そこで、社会的養護を担う児童福祉施設の小規模化の推進が検討され、その現状と課題について、施設職員への調査<sup>1)</sup>、子どもへの調査<sup>2)</sup>が実施されている。それらの結果からは、個別的ケアの充実、情緒面でのメリットが明らかにされる一方、小規模化による人的環境から発生するデメリットについても報告されている。また、小規模化に伴う職員の困惑感についての報告もある<sup>3)</sup>。

しかしながら、児童福祉施設の小規模化について、食事環境に焦点をあてた調査研究は、現在までに実施されていない。食事環境は成長期の子ど

もにとって、身体の成長・発達に直接的に影響するだけにとどまらない。適切な食事環境においては、複数の人間と囲む食卓を通して、人間関係が構築され、豊かな心が育まれる。また、子どもの頃に身についた不適切な食習慣を、成人期以降に改善することは困難を伴うことが多い。さらに、近年は、「生活習慣病の一次予防は、食生活に気をつけることから始めよう。」と言われており、生活習慣病発症の素地を作らないためにも、子どもの頃から、生涯にわたり健康な生活を営むための適切な食習慣を身につけたり、食生活、栄養に関する知識・技術を修得することが必要とされる。すなわち、成長期の子どもへの適切な食事環境の提供は、生涯にわたる心身の健康状態の基礎づくりに重要なことである。

そこで、本研究においては、児童養護施設の入所児童、職員の QOL の向上を目的に、食事環境調査を本体施設と小規模ケアに分けて実施し、施